

Maxwell速度分布則のシミュレーション

1 目的

気体分子の速度分布を計算機シミュレーションによって調べる。

2 理論

気体は液体や固体とは異なり，気体を構成している分子が3次元空間を自由に運動を行っている。それは，分子間に働く力を無視できるからである。気体分子が他の分子と衝突するとき運動の方向や速さを変えるが，その前後では全運動量および全エネルギーは保存される。このような気体のモデルがいわゆる「理想気体」である。2分子A，Bの距離が D に近づいたとき衝突が起こるとする。衝突の瞬間での2分子A，Bの位置ベクトルをそれぞれ r_A, r_B とし，直前での速度を v_A, v_B ，衝突後の速度を'を付けて表すと

$$v'_A = v_{B1}e_1 + v_{A2}e_2 + v_{A3}e_3, \quad v'_B = v_{A1}e_1 + v_{B2}e_2 + v_{B3}e_3 \quad (1)$$

が成立する。ここに， e_1 は衝突の瞬間において2分子の重心を結ぶ方向の単位ベ

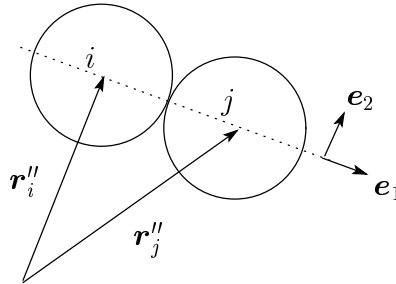


図 1: 衝突の瞬間

クトル， e_2, e_3 は e_1 に垂直な平面内の互いに直交する単位ベクトル， v_{A1}, \dots, v_{B3} は v_A, v_B の各成分である。式(1)は，衝突の前後では e_1 に垂直な速度成分は変化しないが，2分子の速度の e_1 成分は互いに交換することを意味する(図を参照)。式(1)における第1の式の右辺に $v_{A1}e_1$ を，第2の式の右辺に $v_{B1}e_1$ を加えて差し引けば，

$$v'_A = v_{B1}e_1 + v_{A2}e_2 + v_{A3}e_3 + v_{A1}e_1 - v_{A1}e_1$$

$$v'_B = v_{A1}e_1 + v_{B2}e_2 + v_{B3}e_3 + v_{B1}e_1 - v_{B1}e_1$$

しかるに， $v_A = \sum_{k=1}^3 v_{Ak}e_k$ ， $v_B = \sum_{k=1}^3 v_{Bk}e_k$ であるから

$$v'_A = v_A + (v_{B1} - v_{A1})e_1, \quad v'_B = v_B - (v_{B1} - v_{A1})e_1 \quad (2)$$

式 (2) には e_2, e_3 は含んでいないので便利である。 e_1 は次式で与えられる。

$$e_1 = \frac{\mathbf{r}_A - \mathbf{r}_B}{D} \quad (3)$$

時刻 t における i 番目の分子 (以下分子 i) の位置ベクトルおよび速度をそれぞれ $\mathbf{r}_i, \mathbf{v}_i$ とする。今, 分子 i と分子 j が時刻 t から $t + \Delta t$ の間で衝突したとする。衝突した時刻が $t + \Delta t - \delta t$ であったとすると, 次の方程式を満たす。

$$|\mathbf{r}'_i - \mathbf{v}_i \delta t - \mathbf{r}'_j - \mathbf{v}_j \delta t| = D \quad (4)$$

ただし, $\mathbf{r}'_i = \mathbf{r}_i + \mathbf{v}_i \Delta t$, $\mathbf{r}'_j = \mathbf{r}_j + \mathbf{v}_j \Delta t$ である。(4) 式の両辺を 2 乗して δt を求めると,

$$\delta t = \frac{c_{ji} + \sqrt{c_{ji}^2 + (D^2 - \mathbf{r}_{ji}^2) \mathbf{v}_{ji}^2}}{\mathbf{v}_{ji}^2} \quad (5)$$

ここで

$$\mathbf{r}_{ji} = \mathbf{r}'_j - \mathbf{r}'_i, \quad \mathbf{v}_{ji} = \mathbf{v}_j - \mathbf{v}_i, \quad c_{ji} = \mathbf{r}_{ji} \cdot \mathbf{v}_{ji} \quad (6)$$

したがって, 衝突の瞬間において定義される単位ベクトル e_1 は次式で与えられる。

$$e_1 = \frac{\mathbf{r}_{ji} - \mathbf{v}_{ji} \delta t}{D} \quad (7)$$

2 分子 i, j の衝突後の速度に ' を付けて表すと式 (2) より

$$\mathbf{v}'_i = \mathbf{v}_i + (\mathbf{v}_{ji} \cdot e_1) e_1, \quad \mathbf{v}'_j = \mathbf{v}_j - (\mathbf{v}_{ji} \cdot e_1) e_1 \quad (8)$$

故に, 衝突後の時刻 $t + \Delta t$ での 2 分子の位置 $\mathbf{r}'_i, \mathbf{r}'_j$ は次式で与えられる。

$$\mathbf{r}'_i = \mathbf{r}_i + \mathbf{v}_i (\Delta t - \delta t) + \mathbf{v}'_i \delta t, \quad \mathbf{r}'_j = \mathbf{r}_j + \mathbf{v}_j (\Delta t - \delta t) + \mathbf{v}'_j \delta t \quad (9)$$

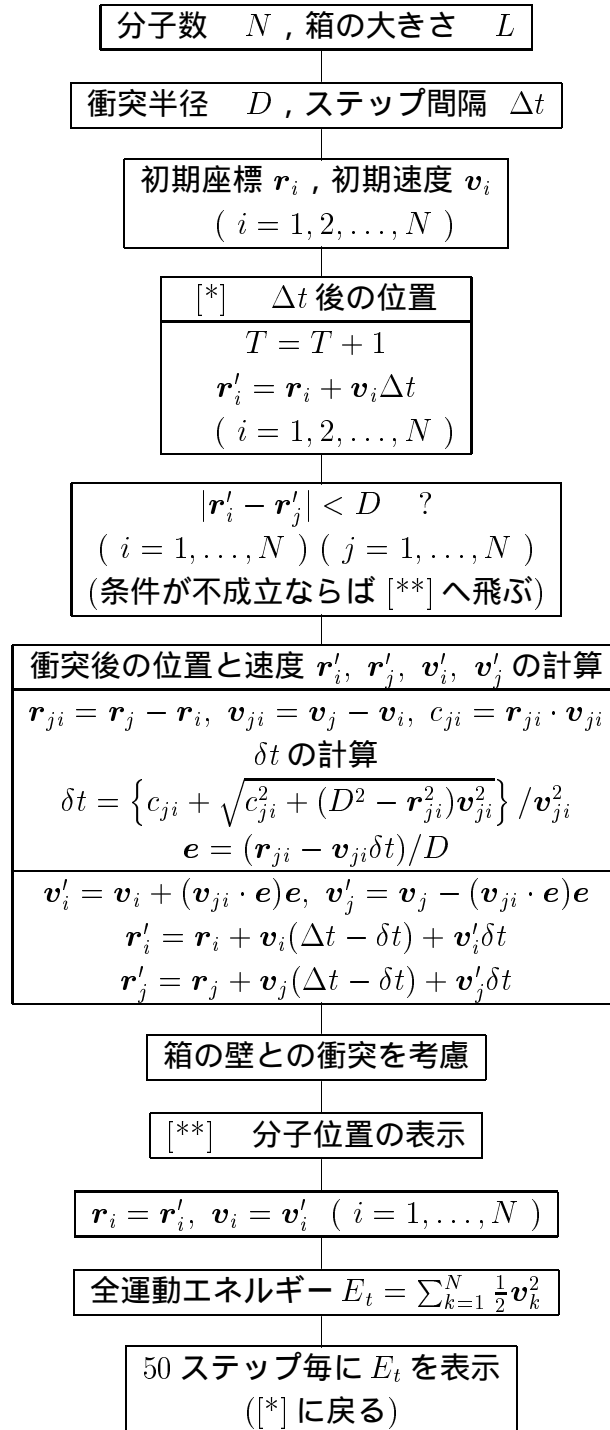
式 (5)-(9) によって, 衝突前の時刻 t における位置と速度から, 衝突後の時刻 $t + \Delta t$ の位置と速度を得ることができる。

分子が箱の中に閉じこめられている場合には, 分子が壁との衝突前後では, 壁に平行な速度成分 v_{\parallel} は変化しないが, 壁に垂直な速度成分 v_{\perp} の符号が反転する。すなわち

$$v'_{\parallel} = v_{\parallel}, \quad v'_{\perp} = -v_{\perp} \quad (10)$$

である。

3 フローチャート



4 シミュレーション結果の検討

速度分布則より，分子の速さが v から $v + dv$ の間にある確率 $p(v)dv$ は次式で与えられる。

$$p(v)dv = 2\alpha v e^{-\alpha v^2} dv \quad (11)$$

上式は規格化条件 $\int_0^\infty p(v)dv = 1$ を満たしている。 α は速度の2乗平均 $\langle v^2 \rangle$ との間に次のような関係がある。

$$\langle v^2 \rangle = \int_0^\infty v^2 p(v)dv = \frac{1}{\alpha} \quad (12)$$

N 個の分子の全運動エネルギーを E_t とすると，

$$\alpha = \frac{1}{\langle v^2 \rangle} = \frac{N}{2E_t} \quad (13)$$

で与えられる。

前節のフローチャートにおいて，50step 毎に速度の大きさについての統計をとる計算を追加する。そのきざみ幅を Δv ，統計計算の回数を M とすると， k 番目の統計結果 P_k は

$$P_k = NM \int_{k\Delta v}^{(k+1)\Delta v} p(v)dv \cong 2\alpha NM v_k e^{-\alpha v_k^2} \Delta v \quad (14)$$

ただし，

$$v_k = (k + 0.5)\Delta v \quad (k = 0, 1, \dots)$$

である。統計計算の回数を多くすると，式 (14) の結果に近づくはずである。この事を，種々の初期乱数によってシミュレーションを試み考察せよ。

5 画像の編集の仕方

シミュレーションで得られた速度分布の画像を次の手順で編集しよう。

- をクリック
- ¹ を実行
-
- 必要な部分を選んでファイル化する

¹ の中にある